

[008] 総合文化学論輯表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2229995>

出版情報：総合文化学論輯. 8, 2018-05-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies
バージョン：
権利関係：

総合文化学会活動記録 2017.11.1—2018.5.1

『総合文化学論輯』(ISSN 2189-0986)第7号刊行 2017.11.1

第12回総合文化学会

日時：2018年3月31日(金) 午前10時～午前11時45分

場所：福岡市男女共同参画センターアミカス研修室D

1. ご挨拶・ご連絡
2. 口頭発表

①

発表者：

山口誠 (九州大学専門研究員・哲学)

発表タイトル：「アンスコムを、どう読むか」

発表要旨：

現代英国の哲学者アンスコムのテキストは難解なことで知られており、その「分からなさ」を共有できているのかどうかは兎も角、発表者も、読んでいて率直のところ同じ印象を抱いている。本発表で、アンスコムのテキストに関して、新奇であったり有益な考察ができるかどうかは不勉強故に分からないが、少なくとも、発表者なりのアンスコム理解を示したいと思う。テキストは『インテンション』(1957)で、テーマは「観察に基づかない知識 (knowledge without observation)」という概念である。

②

発表者：

荒木正見 (総合文化学会・哲学、比較文化)

発表タイトル：「地域学の方向性 —尾道学を例にして—」

発表要旨：

各地で地域学が論じられているが、個々の研究はそれぞれの関心の赴くままや、町おこしという目的があっても良いのだが、「学」という以上は、統合的な展開を求めなければならない。その根底には、哲学や倫理学が横たわり、その上にすべての研究や実践が関わっていくのが理想的な姿であろう。発表者は、「尾道学」の提唱者として取り上げられるようになったが、尾道学はその後、尾道で新たな展開を示している。そのことに触れつつ地域学の方向性を考えてみたい。

『総合文化学論輯』(ISSN 2189-0986)第8号刊行 2018.5.1